

☹️ 図書館の大切な本が泣いています。

市立図書館が平成6年4月に開館して15年が過ぎました。現在、貸し出し冊数は年間100万冊を超え、蔵書冊数も40万冊を超えています。図書館の本は市民一人一人の貴重な共有財産です。しかし、無断持ち出しや切り取りなど一部の心無い利用者の行為で、わたしたちの大切な財産が利用できなくなってしまう事例も少なくありません。図書館は皆さん一人一人のマナーによって支えられています。大切な本を、より多くの皆さんに長く利用していただくため、ご理解とご協力をお願いします。

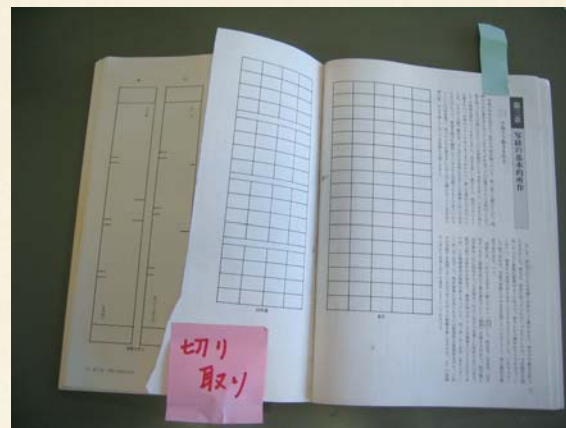
無断持ち出し

6月19日から30日まで、図書館を閉館してすべての本を点検した結果、本年度に所在が分からなくなった本が1,936冊(早岐、相浦、世知原、宇久地区公民館を含む)もあることが判明しました。これを出版物の平均単価2,503円(出版年鑑2009)で計算すると約480万円分の本を損失したことになります▶写真は、無断で館外へ持ち出され、バーコードなどがはぎ取られた後、返却ポストに入れられた本。



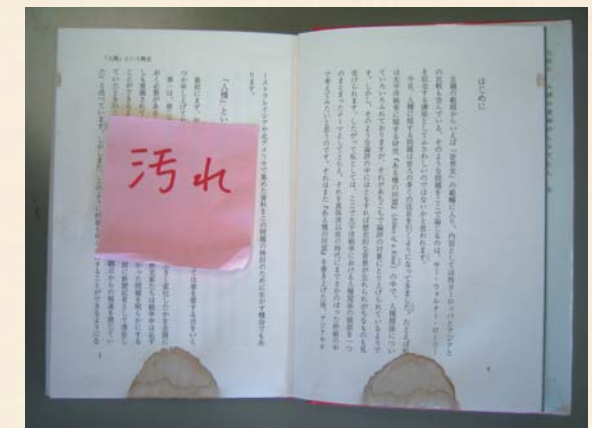
ページ等の切り取り

ページを切り取ってしまうと、当然ながらその本は二度と利用できなくなります。すでに絶版された本などは新しく買い直すこともできません。情報の写し等が必要な場合はメモを取るか、館内のコピーサービスをご利用ください(著作権法の範囲内でコピーができます)▶写真は、記事が切り取られ、そのまま館内の棚に戻ってあった本。このほか10ページにわたり破り取られた本もあります。



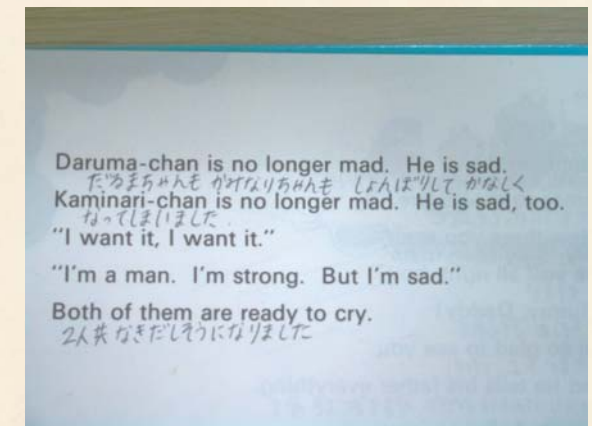
汚れ、染み

飲食しながらの利用は、本を汚してしまう場合があります。食べ物の脂肪分や飲み物の糖分等は本を傷めてしまい、カビや害虫の発生原因になることもあります。また喫煙しながらの利用は、たばこの灰で本が焦げたり、匂いが染み込んでしまったりすることもあります。ご利用の際は十分にご注意ください▶写真は、何ページにもわたり飲食の染みが付けられた本。



書き込み、線引き

本への書き込み、線引き、色付けなどは次に利用する人の迷惑になるだけでなく、本を傷めてしまいます。鉛筆書きでも消し跡や溝が残ったり、紙色がはげたりして元に戻りません。絶対に行わないでください。ページの折り曲げもそこから破れる場合があります▶写真は、和訳が書き込まれ、貸し出しができなくなった本。すべてのページに書き込みされた本もあります。



水ぬれ

紙は湿気を含むと波打った状態になり、乾かしても元に戻りません。そのまま放置するとカビの発生原因にもなります。雨の日に持ち運ぶときは、袋に入れるなど細心の注意を払ってください。また車内で長時間放置した場合も反りの原因になることがあります。取り扱いには十分にご注意ください▶写真は、水ぬれが原因で紙が反り、貸し出しができなくなった本。



※近年、動物のかみ跡やつめ跡と思われる破損が数多く見られるようになりました。ペットを飼っている人や小さな子どもがいる家庭では、本の取り扱いに十分にご注意ください。
※貸し出し中に資料を汚したり、破損したりした場合には、その資料を弁償していただく場合があります。